



First Friends Farm Set

家畜小屋、トラクター、農場の動物を使って、ごっこ遊びや動物の世話をする日常の活動を楽しめます。分類する力、数える力、行動を順序立てる力、動物や食べ物に関する言葉の習得を支えます。

内容

馬屋、トラクター、フィギュア2体、ファームの動物、木2本

対象市場

家庭・教育の両方

セットの内容



子どもが学ぶこと



言葉

動物の名前と鳴き声、ファームの言葉、「馬屋の中」「木のうしろ」。遊びと一緒に出てくる会話です。



はじめての数

動物を数えて入れ、数えて出します。馬屋に2頭、畑に1頭。全部で何頭？



分類とマッチング

大きい・小さい、4本足と2本足、草を食べるかりんごを食べるか。それぞれの動物にそれぞれのおうちを。



世界を知る

牛乳や羊毛、りんごがどこから来るのか、誰がそれに関わる仕事をしているのか。



順序立て

動物を起こし、えさをあげ、牛の乳しぼりをして、りんごを摘み、馬屋の戸を閉める。ファームの一日には順序があります。



お世話と責任

動物たちは農夫のお世話を必要としています。この遊びを通して、子どもたちは生き物を大切に世話する気持ちを育みます。

テーマ

ファームでの暮らし

動物の福祉

食べ物はどこから来る？

動物の鳴き声

数える

季節

人々の仕事



Learning through play

■ ひとつのセットで5年間遊べる



■ セットの4つの使い方

ひとりで発見する：12か月以上
動物1頭と馬屋。鳴き声、入れる、出す、足をカチッと動かす。トラクターだけでも遊べます。

大人と2人で遊ぶ：18か月以上
名前を言い、分類し、数えます。大人が問いかけ、子どもが動物を動かします。

少人数グループ：3～5歳
それぞれが仕事を1つ受け持つ、農夫の一日。馬屋のまわりに3人の子どもがちょうどよい人数です。

常設の遊びコーナー
緑の布の上に、積み木で壁をつくり、First Friendsのおうちを農家に見立てて、ファームのテーマ全体に使えます。

■ 保育の現場で

小さな部品なし。フィギュアと動物は歯固めにも安心

拭いてきれいにできます。砂のトレイや屋外の泥遊びにも使えます

馬屋は収納も兼ねます。片づけのときに動物を中へ入れます

どの動物もフィギュアも1体ずつ購入できます。セットではなく1体だけ交換できます

■ 観察のポイント

☐ 鳴き声を、正しい動物と結びつけていますか？

☐ 数えるとき、ひとつずつ動物に触れていますか？

☐ ファームの一日を順番どおりに演じ、語り直せますか？

☐ 動物を分け、そのルールを言えますか？

☐ 数え直さずに、なくなった動物に気づきますか？

☐ 牛乳、羊毛、りんごが、それぞれどこから来るのかを結びつけられますか？

■ 学びの領域

身体の発達

コミュニケーションと言葉

人間関係と心の発達

身近な世界の理解

数学

表現活動

■ セットを広げる

群れと農場の庭を広げましょう。子犬と子猫は単品でも人気で、ここにぴったりです。クアッドバイクは、農夫に2台目の乗り物を加えます。

First Friends Puppy

First Friends Kitten

Quad with Boy

First Friends House



1 モー、メー、ヒヒーン

12〜24か月
子ども1人+大人

用意するもの
動物3頭と馬屋。

進め方

1. 牛を持ち上げます。「牛。モー」と言います。大きな声で鳴き声をまねします。
2. 牛を渡します。声や視線を待ちます。返ってきたものをまねします。
3. 牛を馬屋まで歩かせます。「入ってね」。戸を閉めます。
4. 子羊とポニーでもくり返します。そのあと馬屋をあけて、外に出します。

学びのねらい

名前を言う 動物の鳴き声 入れる・出す まねる

やさしく ― 動物は1頭だけで、何度もくり返します。

難しく ― 先に鳴き声を出し、子どもに動物を探してもらいます。

注目ポイント

お子様は動物に合った鳴き声を出せていますか？ 鳴き声と動物を結びつける力は、動物の名前を言えるようになる前から育ちます。どちらも言葉の発達につながります。

2 トラクターで木まで

18か月〜3歳
子ども1〜2人+大人

用意するもの
トラクターと農夫、りんごの木、馬小屋。障害物のない約1メートルの床のスペース。

進め方

1. 馬屋を片方の端に、りんごの木をもう片方の端に立てます。
2. トラクターを木まで走らせます。「りんごを摘みに行く」。止まります。「1つ摘んでみて！」
3. 馬屋まで戻ります。「おうちに帰ってきたよ」。止めます。
4. お子様にトラクターを走らせてもらいます。2人目のお子様には、隣を歩くポニーを動かしてもらいます。

学びのねらい

全身運動 位置を表す言葉 旅 止まる、進む

やさしく ― 大人がトラクターに手を添えて、距離を短くします。

難しく ― 障害物を加えます。道に積み木。トラクターはどうやって避ける？

注目ポイント

木のところで止まり、そこで何かしますか？ それともただ走るだけでいいですか？ 両端に目的のある道のりは、2つの出来事のあるお話です。

3 誰がどこに住んでる？

2〜4歳
子ども1〜3人+大人

用意するもの
動物すべて、フィギュア2体、馬屋、木2本。

進め方

1. すべての動物とフィギュアを真ん中に混ぜて置きます。「馬小屋に住んでいるのは誰？」と尋ね、該当する動物を選んで中に入れてもらいます。
2. 「誰がお世話をしているの？」男の子と女の子を馬屋の戸のそばに立たせます。
3. 別の分け方でもう一度。大きい動物はここ、小さい動物はあそこ。
4. さらにもう一度。草を食べるのは誰？ りんごを食べるのは誰？ 正しい木のそばに置きます。

学びのねらい

分類 分類 推論 語彙

やさしく ― 動物と人の2つのグループだけにします。

難しく ― 子どもにルールを考えて、それで分けてもらいます。そのあと、そのルールを当てます。

注目ポイント

分けるときに使ったルールを説明できますか？ まず目立つ特徴で分け、次に示されたルールに従って分け、最後に自分で考えたルールで分けるようになることは、分類する力の発達を示しています。お子様一人ひとりがどの段階にいるか記録しましょう。



4 数えて入れよう

3〜5歳
子ども1〜3人+大人

用意するもの

動物すべてと馬屋。あれば1〜5の数字カード。

進め方

1. 夜。動物を1頭ずつ、触れながら数えて馬屋に入れます。
2. 戸を閉めます。「中に何頭いる？」一緒に合計を言います。
3. 朝。数えながら出します。子どもが見る前に1頭隠します。「みんないる？」
4. 数字カードをめくり、その数びつりの動物を畑に出します。

学びのねらい

数える 1対1対応 基数 1頭足りない

やさしく — 動物は2頭だけにして、大人がそばで声に出して数えます。

難しく — 「中に3頭、畑に1頭。全部で何頭？」

注目ポイント

最後に言った数を、全体の数として理解しているかに注目しましょう。数え直さずに1頭足りないと感じるお子様は、全体の数を頭の中で覚えています。

5 農夫の一日

3〜5歳
子ども2〜3人+大人

用意するもの

セットすべて。あれば市場用の布。

進め方

1. その日の仕事と、誰が何をするか決めます。1人が農夫、1人が手伝い役です。
2. 朝を演じます。馬屋をあけ、動物にえさをあげ、牛の乳しぼりをします。
3. 午後。木からりんごを摘み、トラクターに積み、市場まで走って売ります。
4. 夜。動物が戻り、馬屋を閉めます。「農夫は最初に何をしました？最後は？」と尋ねます。

学びのねらい

順序立て ごっこ遊び 協力 時を表す言葉

やさしく — 仕事は3つだけにします。えさ、乳しぼり、おやすみ。

難しく — 雨が降る、またはポニーが逃げ出す。一日はどう変わる？

注目ポイント

仕事の順番を覚えていて、語り直せますか？お話の途中で問題を解決できるのは、日課の一步先に進んだ姿です。

6 どこから来るの？

4〜5歳
子ども2〜4人+大人

用意するもの

牛、子羊、りんごの木。本物が絵を3つ（牛乳パック、毛糸の靴下、りんご）。

進め方

1. ミルクを見せます。「これはどこから来るのかな？」子どもに予想してもらい、そのあと牛をそばに立たせます。
2. 靴下を見せて、触ってもらいます。「羊毛はどの動物からとれるかな？」と尋ね、子羊と結びつけます。
3. りんごを見せます。木と結びつけます。摘むまねをします。
4. 「ミルクを手に入れるには、農夫は何をする？」と尋ね、演じてみます。

学びのねらい

世界を知る マッチング 語彙 推論

やさしく — 組み合わせは1つだけ。ミルクと牛にします。

難しく — 今度は、動物たちが農夫にしてもらう必要があることを尋ねます。えさ、水、雨風をしのげる場所などです。

注目ポイント

品物と動物、そして動物が必要とするものと農夫を結びつけられますか？この2段階のつながりで、「ファーム」はただのテーマから理解へと変わります。

